

## 特別進学科「入試報告会」

3月17日に特別進学科では1、2年生を対象にした「入試報告会」が実施されました。この報告会は卒業生の入試体験や3学年の学級担任の入試報告を通して、これから受験を迎える1、2年生に良い準備をしてもらう為の伝統行事です。

### 受験は想像以上に厳しかった



#### 石田 真樹君

(宮崎大学・医学部・医学科進学 日大中卒)

受験の厳しさを痛感。入試会場でスーツを着た多くの浪人生を見て、医学部入試の厳しさを知った。

入学時からの目標の「**現役医学部合格**」は果たすことが出来た。成果を上げるには我流より、授業中心の学習スタイルが良いと思う。そして入試を制するには「絶対に合格する」という強い意志が必要だということ、受験を通して知ることができた。

### 県立入試失敗から早稲田合格

#### 菅 大樹君

(早稲田大学・文化構想学部進学・広島大学・文学部合格 高鍋東中卒)

県立入試に失敗し、それを最初は引きずっていたが、先生やクラスメイトの励ましで頑張れた。同じ境遇の人でも今からでも遅くないので頑張りたい。学校では先生からの知識が一番だと思うが、ニュースや新聞、本などあらゆる知識を得ることも受験合格に必要なことだと思う。最後に先生や友人、家族にとっても感謝している。



資料をもとに説明する菅君

### 「個の眼」「師の眼」「衆の眼」



【3学年学級担任 蛭原先生】

孔子が弟子をいましめるために使った、「**個の眼**」にかなう「**師の眼**」にかなう「**衆の眼**」にかなう、という教えを例にあげ、先生達や回りの人達に頑張りを認めてもらって、はじめて望みがかなう。自分は頑張っている、と自己満足している程度ではだめだ。自分自身の限界を作っているのは自分だ。だれの目にもかなうように頑張らなければ、ドラマの主人公にはなれない。菅君は、日曜日にも常に登校し勉強していた。一生懸命やっていることが、かっこ良く見えるようになったら合格できる。

### 本年度の入試分析と今後の対策

【報告者：進学指導部長 本島先生】

進学指導部長の本島先生により、パワーポイントを使っての入試分析が行われました。

『本年度はセンター試験が難化したが2次試験受験者は増加した。これは不況による国立志向が強まっている結果である。宮崎県はセンター試験の結果が47都道府県の中で46位、1位の東京とは125点も引き離されている。非常に危機感を感じている。受験の仕組みを知り、絶対合格するという強い気持ちを持たねばならない。また十分な情報を調べたうえで志望校をいち早く決め、対策を立てることが大学入試は大切だ。』

○最後に在校生を代表し、特別進学科2年1組の**平賀愛恵さん(日大中卒)**がお礼の挨拶の中で、「受験は団体戦です。特進科で団結して頑張ります」と強い決意を述べました。